

## I 研究主題

児童生徒が学ぶ楽しさに気づき、自分の考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる授業の構築  
～社会科における小中高のつながりを意識したキャリア教育の推進を目指して～

## II 主題設定の理由

地球規模の情報技術革新に起因する社会経済・産業的環境の国際化やグローバル化、知識基盤社会化等が進み、今後さらに社会の激しい変化が予想される。このような時代に生きる人間の資質としては、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことが求められる。このような背景のもと、今後も一層各学校でのキャリア教育の推進が求められるようになった。

本県においては、第二次宮崎県教育振興基本計画の中で「施策目標Ⅲ 自立した社会人・職業人を育む教育の推進」が設定され、そのもとで「施策 キャリア教育・職業教育の推進」が取り組まれている。具体的には、「小中高一貫したキャリア教育の推進」を行うために、宮崎県キャリア教育ガイドラインが示されたり、「地域産業界等との連携によるキャリア教育の推進」を図るために、キャリア教育支援センターが開設されたりしている。

本県の児童生徒の実態として、平成24年度みやざき小中学校学力・意識調査から、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」「新聞やテレビニュースなどに関心がある」の4項目において、小学生よりも中学生の方が肯定的な回答を行う割合が低くなっている。これは、発達の段階にふさわしいキャリア発達課題が達成されていないとも言え、本県の子どものもつ課題といえる。また、「家の人から言われなくても進んで勉強をする」「解き方が分からないときは、あきらめずに考える」についても同様の傾向が見られ、自分から進んで学ぼうとする姿勢が不足していることも課題である。以上のことについては、本校の生徒においても、県全体と同様の傾向が見られる。

そこで、本研究では、キャリア教育の視点から、主体的に学ぶことができる児童生徒の育成を目指した授業を構築するために、二つの授業づくりに取り組む。一つは、学習活動を通して基礎的・汎用的能力を育てることを目的として、「学習活動を通してキャリア教育を推進する授業づくり」に取り組む。授業では、各段階に応じた工夫ある手立てを行う。二つは、キャリア教育のねらいと学習内容が一致する社会科の学習単元を一覧にしたシラバスを作成し、それを基に「学習内容を通してキャリア教育を推進する授業づくり」に取り組む。授業では、核となる体験活動とのつながりをもたせたり、家庭・地域・企業等との「横」の連携を図ったりする等の手立てで取り組んでいく。

これらの取組を通して、児童生徒が学ぶ楽しさに気づき、自分の考えを深め、学ぶ大切さを実感することができれば、学校における授業が主体的な学びへと転換していくと考え、本主題を設定した。

## III 研究目標

キャリア教育の視点から社会科の授業づくりを行うことを通して、学習する楽しさに気づき、自分の考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる児童生徒の育成を目指す。

#### Ⅳ 研究仮説

小中高の社会科において、キャリア教育の視点から授業での学習活動に工夫・改善をしたり、校種や学年をつなぐ「縦」の連携から系統性を踏まえて単元を絞り、核となる体験活動とのつながりや家庭・地域・企業等との「横」の連携を図った授業を行ったりすることができれば、学習する楽しさに気付き、自らの考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる児童生徒を育成することができるであろう。

#### Ⅴ 研究計画

月	研究内容	備考
4	研究主題・副題の決定、研究計画の立案	
5	理論の構築、研究概要の設定、実態調査準備	
6	実態調査準備 実践研究Ⅰ（検証授業Ⅰ）の構想	
7	実態調査実施 実践研究Ⅰ（検証授業Ⅰ）実施	実践研究Ⅱ （シラバス作成） 宮崎市立大淀中学校
8	理論の再構築、グループ協議会準備	
9	グループ協議会実施 実践研究Ⅱ（検証授業Ⅱ）の構想	
10	実践研究Ⅱ（検証授業Ⅱ）実施、理論の再構築 全体協議会準備	
11	変容を見るための実態調査	
12	全体協議会実施 実践研究Ⅱ（シラバス検討） 実践研究Ⅱ（シラバス検討）	
1	実践研究Ⅱ（シラバス修正）	
2	主題研究発表会準備	
3	主題研究発表会実施、研究紀要のまとめ	

## VI 研究構想

### 【目指す児童生徒像】

『学ぶ楽しさに気付き、自分の考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる児童生徒』

- 互いの学び合いの中から自分の考えを深めることのできる児童生徒・・・(人間関係形成・社会形成能力)
- あきらめずに最後まで学習に取り組むことのできる児童生徒・・・(自己理解・自己管理能力)
- 学習課題について、見通しを立てて課題解決を図ることのできる児童生徒・・・(課題対応能力)
- 生き方や社会に関心をもち、学ぶ大切さを実感することのできる児童生徒・・・(キャリアプランニング能力)

### 【研究主題】

児童生徒が学ぶ楽しさに気付き、自分の考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる授業の構築  
～社会科における小中高のつながりを意識したキャリア教育の推進を目指して～

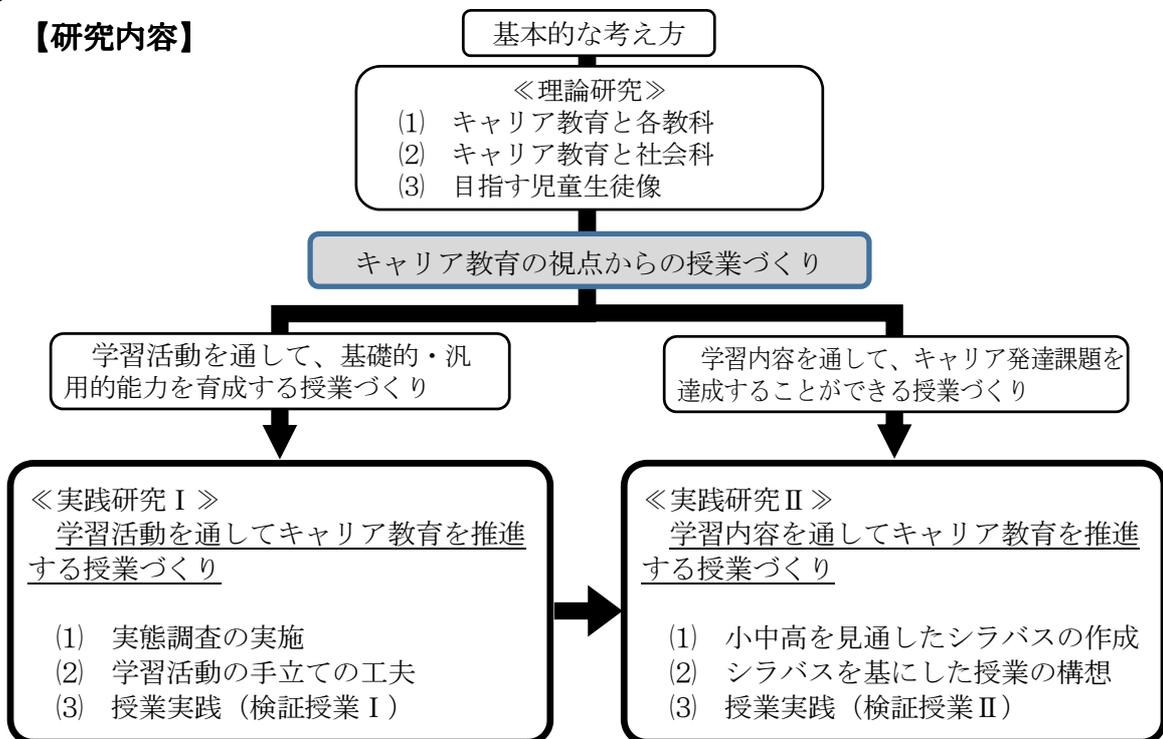
### 【研究目標】

キャリア教育の視点から社会科の授業づくりを行うことを通して、学習する楽しさに気付き、自分の考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる児童生徒の育成を目指す。

### 【研究仮説】

小中高の社会科において、キャリア教育の視点から授業での学習活動に工夫・改善をしたり、校種や学年をつなぐ「縦」の連携から系統性を踏まえて単元を絞り、核となる体験活動とのつながりや家庭・地域・企業等との「横」の連携を図った授業を行ったりすることができれば、学習する楽しさに気付き、自らの考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる児童生徒を育成することができるであろう。

### 【研究内容】



教育関連法規  
学習指導要領  
第二次宮崎県教育振興基本計画  
社会の要請

【本校の教育目標】  
『確かな学力』『強い心』『健康な体』  
をもった生徒の育成

県・学校・生徒の実態  
保護者・教職員の願い

## Ⅶ 研究の実際

### 1 基本的な考え方

キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育である。キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程であり、キャリア発達にはそれぞれの発達の段階において取り組まなければならない課題（キャリア発達課題）がある。この課題を達成するために、各学校ではそれぞれに応じた基礎的・汎用的能力を設定し、全ての教育活動において、その能力の育成を図っていく取組を計画的に実施していく必要がある。このように、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方をキャリア教育の視点という。

### 2 理論研究

#### (1) キャリア教育と各教科

キャリア教育は、特定の教育活動だけで行われるものではなく、学校の教育活動全体を通して取り組んでこそ、そのねらいや目標が達成される。従って、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動が「基礎的・汎用的能力」の育成にどのように関連付けできるかを考えなければならない。そのため、実践に移すには、基礎的・汎用的能力を育成する授業の学習活動の在り方や学習指導要領に示された各教科等の目標や内容とキャリア教育との関連性を捉えて教員が指導にあたる必要がある。このことについて、文部科学省ではキャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書の中で、教科等におけるキャリア教育の視点をもつことの必要性を述べている。

そこで、キャリア教育の視点から授業をつくる際に、【図1】に示すように二つの側面からの授業づくりを行うことにした。

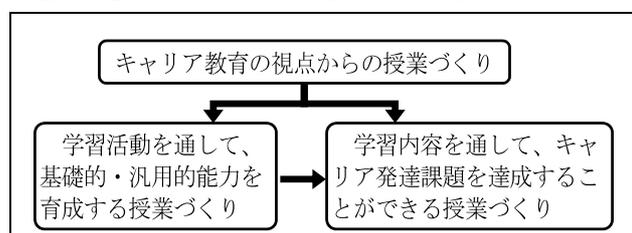
まずは、「学習活動を通して、基礎的・

汎用的能力を育成する授業づくり」である。児童生徒に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力を、学習活動に工夫を凝らすことで育成する。学習活動における手立てを教員が基礎的・汎用的能力を育成することをねらって授業に取り込んでいくことができれば、各教科の授業においてもキャリア教育を推進していくことができる（例えば、グループ学習等で意見交換を行うことで人間関係形成・社会形成能力を育てる等）と考える。

もう一つは、「学習内容を通して、キャリア発達課題を達成することができる授業づくり」である。単元の目標や内容と、キャリア教育のねらいそのものが一致している場合においては、学習活動で基礎的・汎用的能力を育成するだけでなく、授業内容を通してキャリア教育のねらいを達成することができると思う。その際、授業の学びが教科の学びに終わることのないように、「縦」の連携や「横」の連携を図ったり、※核となる体験活動に各教科の学びをつないだりしていく。

※ 宮崎県では、児童生徒のもつ課題を克服するための体験活動を「核となる体験活動」と位置付け、各教科等の学びが断片化されないように、核となる体験活動につなぐことが大切であるとしている。

【図1】 キャリア教育の視点からの授業づくり



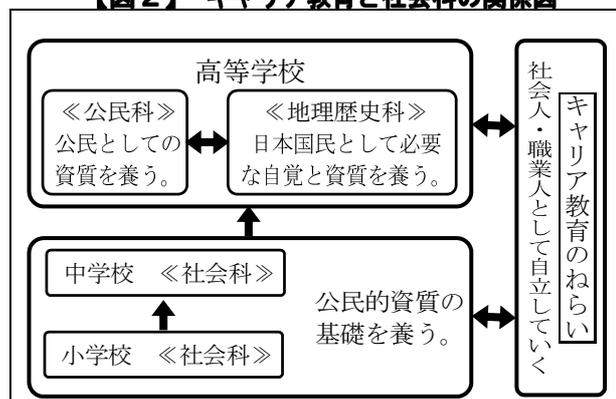
## (2) キャリア教育と社会科

小中学校社会科の目標に共通するのは、「公民的資質の基礎を養う」という部分である。「公民的資質」とは、「市民・国民として行動する上で必要とされる資質（小学校学習指導要領解説社会編）」とし、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎をも含むもの」と記されている。これは、社会科の学習が知識・理解の習得にとどまらず、児童生徒が自ら課題解決を図りながら学習に取り組むことを通して、社会に対する関心を高め、社会を形成する人間として望ましい態度を身に付けることが重要であることを表している。

高等学校地理歴史科・公民科では、「中学校社会科での学習を踏まえ、各科目の特質と相互の関連を考慮しながら（高等学校学習指導要領改訂の趣旨）」とあるように、「縦」の連携を踏まえた学習に取り組むことの重要性が示されている。地理歴史科においては「日本国民として必要な自覚と資質を養う」、公民科では「国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ことを目標としている。特に、公民科では「公民的な資質」を「豊かな社会生活を築こうとする自主的な精神」「人間としての在り方生き方についての自覚」等と捉え、小・中学校の目標である「公民的資質の基礎」との関連を図っている。

以上のことから、【図2】に示すように小・中学校の社会科や高等学校の地理歴史科・公民科で目指すところは公民的資質を育てることであり、「生徒が『生きる力』を身に付け、激しく変化する社会の中で、それぞれが直面するであろう様々な問題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにする（中学校キャリア教育の手引き 文部科学省）」といったキャリア教育のねらいと深く結び付くことになる。この点で、社会科は他教科に比べ、キャリア教育との関連が深い教科であるといえる。

【図2】 キャリア教育と社会科の関係図



## (3) 目指す児童生徒像

主題設定の理由で述べたように、本県・本校の児童生徒の課題として、平成24年度みやぎき小中学校学力・意識調査の中から「発達の段階にふさわしいキャリア発達課題が達成されていない」「自分から進んで学ぼうとする姿勢が不足している」という二点をあげることができる。これらの課題を克服するためには、児童生徒の主体的な学びが大切であり、そのための授業づくりに教員が取り組んでいくことが大事である。

児童生徒の主体的な学びに関して速水敏彦氏は、次のように述べている。

内発性の学習意欲には二種類あって学習活動自体が「おもしろい」「楽しい」といったものと、学習成果として「分かった」「できた」という喜びがある。

（「学習意欲を高める」 速水敏彦 著 平成20年7月 児童心理）

このことから、学習の楽しさは、ただ「おもしろい」というだけではなく、「分かった、できた」という成果を上げたり、達成感を味わったりすることで感じるができるものと考えられる。

また、小林宏己氏は次のように述べている。

「自ら学ぼうとしない」ように見える子ども… (中略) …一人ではなく、仲間と一緒に学びたいと思っているのかもしれない。気心が通じ合い、課題意識が共有できる仲間であれば、多少学び方に不安があっても、コミュニケーションを通じて不足する学び方を補い合いながら、安心して取り組むことができるからである。

(「自ら学ぶ子どもを育てる授業づくり」 小林宏己 著 平成24年6月 初等教育資料)

このことから、個人の学習活動だけでなく、グループでの学習活動を取り入れることが児童生徒のより主体的な学習につながると考えられる。また、グループで学習活動に取り組むことによって、友だちの多様な意見から自分の気付かなかったことを気付いたり、思考を深めたりすることが期待できる。

さらに櫻井茂男氏は、次のように述べている。

学習内容は面白くないけれど、将来就きたい職業と関連していて、当該内容を学ぶことがとても重要であると思えば、子どもは自発的に学ぶようになるであろう。

(「動機づけ論を再考する」 櫻井 茂男 著 平成20年7月 児童心理)

つまり、学習が将来にとって大切なものであることに気付くことができれば、学習に進んで取り組んでいくようになると考えられる。

以上を踏まえて、児童生徒が、主体的に学ぶ授業づくりの3つのポイントとして「(児童生徒が) 学ぶ楽しさに気付くこと」「(児童生徒が) 自分の考えを深めること」「(児童生徒が) 学ぶ大切さを実感すること」を設定することが大事であると考え、本研究では、目指す児童生徒像について以下のように設定した。

**学ぶ楽しさに気付き、自分の考えを深め、学ぶ大切さを実感することのできる児童生徒**

この目指す児童生徒像を、キャリア教育の視点から、基礎的・汎用的能力の4つの能力ごとに授業の中で育てたい児童生徒の姿として捉え、整理したのが【表1】である。また、基礎的・汎用的能力を構成する具体的な要素についても整理した。

**【表1】 基礎的・汎用的能力から捉えた授業の中で育てたい児童生徒の姿**

基礎的・汎用的能力	基礎的・汎用的能力から捉えた授業の中で育てたい児童生徒の姿	具体的な要素
人間関係形成・社会形成能力	互いの学び合いの中から自分の考えを深めることができる児童生徒	○ 他者の個性を理解する力 ○ コミュニケーション・スキル ○ 他者に働きかける力 等
自己理解・自己管理能力	あきらめずに最後まで学習に取り組むことができる児童生徒	○ 前向きに考える力 ○ 忍耐力 ○ 主体的行動力 等
課題対応能力	学習課題について、見通しを立てて課題解決を図ることができる児童生徒	○ 計画立案 ○ 情報の理解・選択・処理 ○ ※課題を解決する力 等
キャリアプランニング能力	生き方や社会に関心を持ち、学ぶ大切さを実感することができる児童生徒	○ 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ○ 多様性の理解 ○ 行動と改善 等

(参考・引用文献 「中学校キャリア教育の手引き」 平成23年3月 文部科学省)

※ 「課題を解決する力」については、「中学校キャリア教育の手引き」には示されていないが、課題発見や実行力、原因の追究といった課題対応能力の要素を含むものとして設定した。

### 3 実践研究Ⅰ 学習活動を通してキャリア教育を推進する授業づくり

#### (1) 実態調査の実施

児童生徒の授業での学習活動の実態を把握するために、キャリア教育の視点から実態調査を行うことにした。実態調査の質問項目は、【表1】を参考にして基礎的・汎用的能力ごとに質問項目を3つずつ作成し、授業における学習活動に即した形で設定した。これを表にしたものが【表2】である。

【表2】 基礎的・汎用的能力と実態調査の質問項目との関連

基礎的・汎用的能力	具体的な要素	質問項目
自己理解・自己管理能力	前向きに考える力	Q1 授業では、課題に対して前向きに考えて取り組んでいる。
	忍耐力	Q2 授業では、難しい課題であっても、あきらめずに考えている。
	主体的行動力	Q3 授業では、自信をもち自分から進んで課題解決しようとしている。
課題対応能力	計画立案	Q4 授業では、予想を立てながら課題の解決に取り組んでいる。
	情報の理解・選択・処理	Q5 授業では、教科書や資料集、配付された資料などから課題解決をするために必要な手がかりを見つけ活用している。
	課題を解決する力	Q6 授業では自分の考えをもとに課題を解決している。
人間関係形成・社会形成能力	他者の個性を理解する力	Q7 授業では、自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いている。
	コミュニケーション・スキル	Q8 授業では、先生や友だちに質問をしたり、分からないことを聞いたりしている。
	他者に働きかける力	Q9 授業では、自分の考えを全体や班（グループなど）の中で発表したり、伝えたりしている。
キャリアプランニング能力	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解	Q10 授業では、学習内容を理解したり自分の考えをもったりすることで、楽しさを感じている。
	多様性の理解	Q11 授業では、さまざまな見方や立場で考えている。
	行動と改善	Q12 授業では、自分の学習の様子をふり返り、次の授業に生かそうとしている。

実態調査は、事前の状況を把握するために実施（平成25年7月 対象：大淀中学校3年1組 33名）した。この実態調査の結果より、特に肯定的な割合の低かった（6割に満たない）項目を取り上げ、授業の中で取り組む手立てについて【表3】のように考えた。

【表3】 キャリア教育の視点から見た生徒の課題と手立て

質問項目	※割合	生徒の課題	基礎的・汎用的能力を育てるための手立て
Q4	51.5%	学習課題に対して、予想を立てることが難しいと感じている。	学習課題を既習内容と経験を関連付けて提示し、学習の方向性を示す。
Q6	48.5%	自分の考えがはっきりしなかったり、考えをもてていなかったりしている。	考えをまとめるための材料を提供したり、自分の考えを深める場の設定を行ったりする。
Q9	52.0%	発表の機会が少なく、発表活動に対して、消極的になりがちである。	積極的にグループ活動を取り入れ、発表活動による学び合いに取り組みさせる。
Q11	54.6%	多角的・多面的に考えることを苦手としている。	多様な見方や考え方ができる学習課題を提示したり、意見交換の場を設定したりする。

※ 「強く思う」「まあそう思う」という肯定的な回答をした割合を示す。

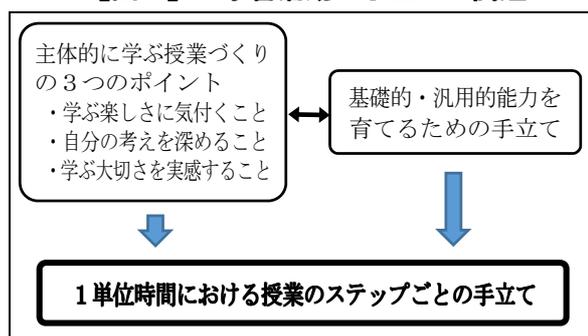
(2) 学習活動の手立ての工夫

「主体的に学ぶ授業づくりの3つのポイント」と「基礎的・汎用的能力を育てるための手立て」を関連させながら、1単位時間の授業に取り組む手立てを【図3】のようにし、具体化を図った。

まず、学習指導過程を大きく4つのステップ（段階）に分け、各ステップで児童生徒の学習活動にとって有効となる手立てを考えた。手立ては【表4】に示すよう

に、児童生徒が授業の学びの楽しさに気付きながら、学習活動に取り組み、段階的に考えが深まっていくことができるように設定した。

【図3】 学習活動の手立ての関連



【表4】 1単位時間における授業のステップごとの手立て

段階		ねらい	手立て
ステップ1 (導入)	教材の提示	本時学習に対する興味・関心をもたせ、授業を通して学習に取り組みたいという態度を培う。	<b>ア 学習課題に興味・関心をもたせるための教材（資料等）の工夫</b>
	学習課題の設定	本時学習を行う必要性や学習内容・学習の方向性を児童生徒につかませる。	<b>イ 学習課題を切実な問題として考えるための設定方法の工夫</b>
ステップ2 (展開前段)	基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な習得	時間を確保しながら児童生徒に基礎的・基本的な内容をしっかりと習得させることで、自分の考えをもつ学習活動へとつないでいく。	<b>ウ 基礎的・基本的な知識、概念や技能を効果的に習得するためのワークシート・資料の工夫</b>
ステップ3 (展開後段)	発展課題への取組	グループ内で意見交換をすることで、多様な意見に気付かせるとともに、自分の意見を伝え、相手の意見を聞くといった活動の場の確保も行っていく。	<b>エ 多様な考えに気付くためのグループ活動における学び合いの工夫</b>
ステップ4 (終末)	学習のまとめ	学習活動を通して変容した自分の思考を整理し、自分の考えを文章としてまとめさせる場を設定していく。	<b>オ 学習を通して、深まった自分の考えをまとめる場の工夫</b>

ア 学習課題に興味・関心をもたせるための教材（資料等）の工夫

授業の導入段階では、児童生徒が興味・関心をもつような教材（資料等）を準備する。日常生活や時事問題等の中から教材を開発し、これらを扱うことで、授業での学びと自分につながりがあることを認識させる。そうすることで、児童生徒に「なぜ」「どうなっているか」「どうなるか」等の疑問をもたせたり、児童生徒の既習の知識にゆさぶりをかけたりすることで興味・関心をもたせることができると考える。そのためにも、教科書や資料集だけでなく、新聞や書物、インターネット等の資料も大いに活用した。

イ 学習課題を切実な問題として考えるための設定方法の工夫

児童生徒が学習の目標を理解し、見通しをもつことができるものとなるように、文言に配慮しながら学習課題を設定する。そうすることで、児童生徒は学習課題が提示された時に、授業において考える方向性をつかむことができ、「こうではないか」と自分の中で予想を立てやすくなると考える。また、様々な視点から考えられる課題を設定し、授業での学習活動を通して答えが生まれてくるような「考える問い」を設定した。

ウ 基礎的・基本的な知識、概念や技能を効果的に習得するためのワークシート・資料の工夫

学習した内容の確実な習得なしには、自分の考え（答えや意見等）を示すことができない。さらに、示された考えは習得の度合いによって、その質が変わってくる。よって、習得を図る場面においては、児童生徒に教科書の文章から抜き出してまとめるような活動だけではなく、教科書等の資料を活用して自分の言葉でまとめる活動等に取り組みさせる。そのために、児童生徒が習得すべき知識、概念や技能を教員が整理しておくことや、ワークシート等を使って困り感をもった児童生徒のためにヒントとなるような視点を示す等の工夫も考えた。

エ 多様な考えに気付くためのグループ活動における学び合いの工夫

児童生徒は意見交換の中で、自分の考えと友だちの考えを比較しながら、多様な意見や考えがあることや、自分が思いつかなかったり、分からなかったりした考えに気付くことを体験する。またグループ活動では、相手の話を聞くこと、相手に伝わるように話すことで、人間関係形成・社会形成能力を高めることができると考えられる。グループ活動を効果的に取り入れ、よりよい解決や表現を求めて学び合いをさせることで、ともに学ぶ喜びを感じさせ、一人一人の思考がより深まるようにした。

オ 学習を通して、深まった自分の考えをまとめる場の工夫

学習の終末段階において、児童生徒は多様な考えに触れ、少なからず思考に変容が出ていると考えられる。そこで、その思考の変容を一人一人が整理し、文章で表現をする時間を確保する。その上で、習得した基礎的・基本的な知識、概念や技能を用いたり、グループ活動で他者から得た考え方等を生かしたりしながら自分の深まった考えを表現できるようにした。

上述したア～オの手立てを図式化し示したものが【図4】である。授業の各ステップで、児童生徒の思考の流れや深まりが出てくるように手立てを分かりやすく示すことで、社会科だけでなく、他教科の授業づくりにも活用できると考える。また、自分の考えをワークシートに記入する、自分の考えを伝えたり、友だちの発表を聞いたり、意見を交換する等の活動を取り入れることで言語活動の充実を図ることができると考える。

【図4】 半端活動を通してキャリア教育を推進する授業づくり

学ぶ楽しさに気付く、自分の考えを深め、学ぶ大切さに気付くことのできる授業づくり (キャリア教育の観点より)

※「キャリア教育の視点」とは、将来の社会的自立・職業的自立を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方をもつこと。

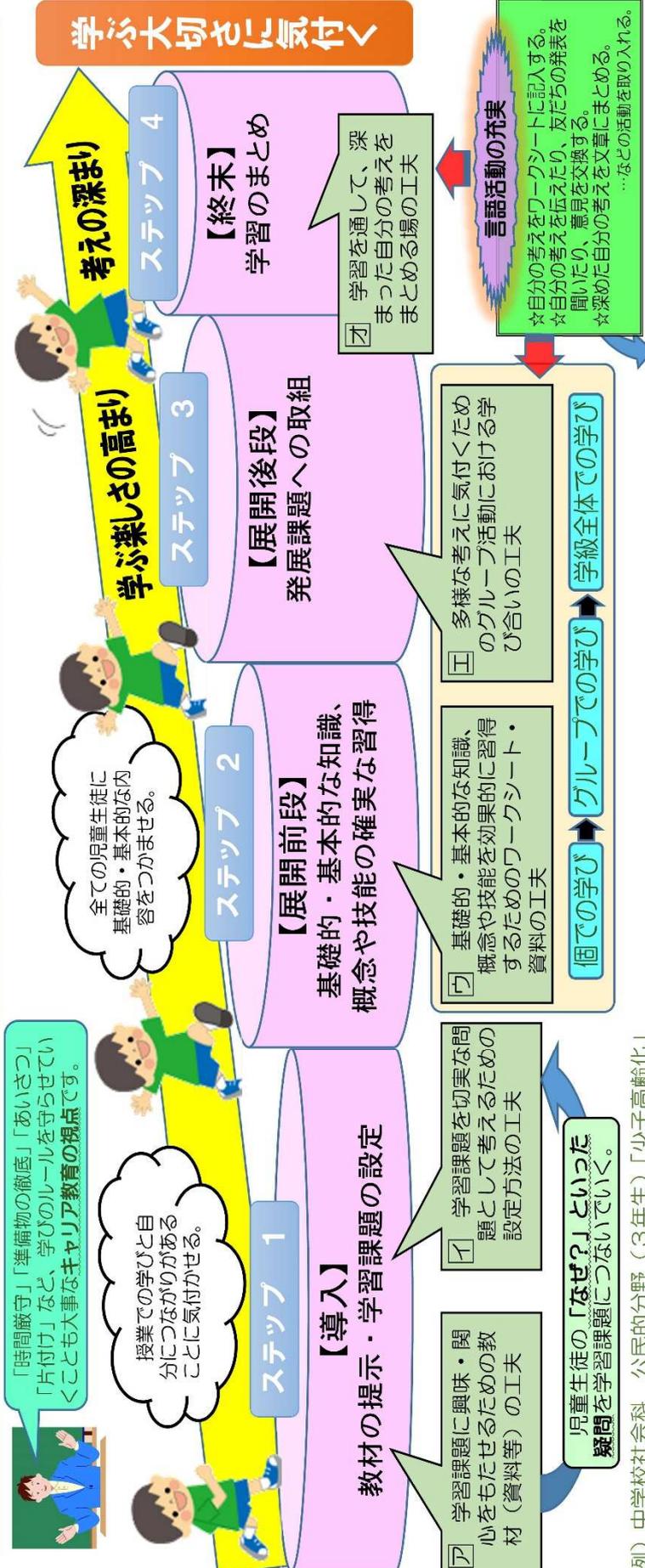
**【自己理解・自己管理能力】**  
あきらめずに最後まで学習に取り組むことができる。

**【課題対応能力】**  
学習課題について、見通しを立てて課題解決を図ることができる。

**【人間関係形成・社会形成能力】**  
互いの学び合いの中から自分の考えを深めることができる。

**【キャリアプランニング能力】**  
生き方や社会に関心を持ち、学ぶ大切さを実感することができる。

授業での学習活動を通して育てたい**基礎的・汎用的能力**



例) 中学校社会科 公民的分野 (3年生) 「少子高齢化」

☆教材の提示...☆アの手立

- 資料(宮崎市の人口ピラミッド)から現状を知り、興味・関心をもつ。
- 宮崎県も少子高齢化が進んでいる。

☆学習課題を設定...☆イの手立

- 子どものつぶやき(疑問)から課題を設定する。
- これから、宮崎市はどのようになるの?

☆基礎・基本の習得...☆ロの手立

- 精選した資料から基礎的・基本的な内容を読み取っていく。
- プリント資料の中から、少子高齢社会の課題が分かった!

☆発展課題の取組...☆エの手立

- グループで意見を交換し合うことで、自分の考えを深めていく。

☆学習のまとめ...☆オの手立

- 文章で表現する。
- 「果敢事ならどんな対策をとる?」
- 【ある生徒の考え】待機児童を減らすために、会社や地域ごとに保育所をつくり、高齢者を雇う。

(3) 授業実践 (検証授業 I)

<p>1 授業実施日 平成 25 年 7 月 16 日 (火) 第 4 校時</p> <p>2 対象生徒 宮崎市立大淀中学校 第 3 学年 1 組</p> <p>3 指導単元 社会科「現代社会と私たちの生活～少子高齢化」</p> <p>4 検証の視点</p> <p>○ 授業の各ステップで、取り組む手立てが有効となっているか。</p>	
<p>学習内容及び学習活動</p>	<p>指導上の留意点 ※網掛けはキャリア教育の視点からの手立て</p>
<p><b>ステップ1 教材の提示</b></p>	
<p>1 本時学習に対する興味・関心をもつ。</p> <p>『○○○○社会』にあてはまる語句は何？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子化の確認→資料「子どもの数の推移」</li> <li>・ 高齢化の確認→資料「高齢者の数の推移」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『○○○○社会』にあてはまる語句を問いかけて、生徒の中から『少子高齢社会』の言葉を出させる。</li> <li>○ 少子化、高齢化についてグラフを通して、急速に進みつつあることを押さえる。</li> </ul> <p>ア 視覚教材 (動画・資料等) を使い、生徒に本時の学習に対する興味・関心をもたせる。</p>
<p><b>ステップ1 学習課題の設定</b></p>	
<p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>少子高齢社会における課題の対応策について考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少子高齢社会の課題への対応策を考える活動であることを確認する。</li> </ul> <p>イ 学習課題 (考える問い) を設定し、生徒に深く追究させる。</p>
<p><b>ステップ2 基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な習得</b></p>	
<p>3 少子高齢社会の課題を調べる。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働と子育ての両立が難しい。</li> <li>・ 子育ての制度が整っていない。</li> <li>・ 女性の一人当たりの出産数が少ない。</li> <li>・ 高齢者を支える負担が大きくなる。</li> <li>・ 高齢者の社会保障費が高くなる。</li> <li>・ 負担分の社会保障費がもらえない。等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動に入る前に、資料 (グラフ) についての補足説明を行う。</li> <li>○ 資料プリントを使用して、ワークシートにまとめさせる。学習が進まない生徒に対しては、ヒントプリントを準備しておく。</li> </ul>  <p>ウ ワークシートや資料を使って、基礎的・基本的な内容を調べさせる。</p>
<p><b>ステップ3 発展課題への取組</b></p>	
<p>4 少子高齢社会の課題への対応策について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人での作業</li> <li>○ グループでの作業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の意見の発表</li> <li>・ グループでの対応策のまとめ</li> </ul> </li> </ul> <p>【対応策】</p> <p>育休制度 保育園 子ども手当 出産祝い金 年金 社会保障費 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループごとの発表             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体で対応策の確認</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題に対する具体的な解決策を考えさせるために、箇条書きで書くように指示する。</li> <li>○ 机間指導を行い、考えがまとまらない生徒に個別に指導を行っていく。</li> <li>○ 解決策の意見交換を行い、グループの意見をまとめさせ、掲示できるように意見を短冊一枚に 1 つ書かせていく。</li> </ul> <p>エ 友だちと考えを発表し合い、共通点・相違点等に気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループの意見を発表させ、学級全体で意見を共有できるように、出された意見 (短冊) を黒板にまとまりごとに類型化する。</li> </ul>

<p>5 県内の状況をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宮崎市民の要望（アンケート）との比較</li> <li>○ 西米良村の取組紹介（動画 1分44秒）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで出された意見と宮崎市民の要望を比較し、行政の支えが必要なことに気付かせる。</li> <li>○ 県内の地方自治の取組を紹介する。効果が出ている自治体があることに気付かせる。</li> <li>○ 国や地方ができる対策をとる必要があることと国民一人一人も政治に参加することの大切さを伝える。</li> </ul>
<p><b>ステップ4 学習のまとめ</b></p>	
<p>6 自分の考えを深める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【まとめる視点】</b> あなたが知事ならどういう対策をとりますか？</p> </div> <p>7 本時の学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習を通して考えたことをまとめさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>オ 話し合い活動や学習を通して、深まった考えをまとめる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まとめた考えを数名の生徒に発表させる。</li> <li>○ 本時の学習がこれからの公民の授業での学習につながっていくことを示す。</li> </ul> 

○ 成果と課題

《成果》

- ・ 学習活動の4つのステップごとに手立てを行うことで、授業の学習内容に対する生徒の興味・関心が高まり、思考の流れを学習課題の示す方向へとつなぐことができた。
- ・ 学習活動で習得した知識やグループ活動での意見交換で得た新しい気付き等を生かして自分の考えをまとめさせたことで、生徒の中には思考に深まりが見られた生徒もいた。また、ステップごとに授業を展開していくことで、生徒の学習する様子にメリハリが見られた。

《課題》

- ・ 各ステップで効果を高めるために多く手立てを取り入れたことで、一つ一つの学習活動に時間的な制約ができ、生徒の学習活動に深まりが見られない場合もあるので、授業で行う手立てを整理する必要がある。
- ・ 授業での学習を通して、生徒が自分の考えをもつことができるようになったが、さらに主体的な学びにしていくためにも、授業の中で学ぶ大切さに気付かせる手立てについて考える必要がある。

**4 実践研究Ⅱ 学習内容を通してキャリア教育を推進する授業づくり**

(1) 小中高を見通したシラバスの作成

社会科には、教科の特性上、学習目標や内容がキャリア教育のねらいと一致するものが見られる。具体例を挙げると、中学校公民分野に「わたしたちの暮らしと経済『生産と労働』（東京書籍）の学習があり、中学校学習指導要領解説社会編では「正しい勤労観や職業観の基礎を培うことが必要である」と示している。

そこで、社会科における小中高のつながりを意識したキャリア教育を目指すために、シラバス作成に取り組むことにした。シラバスを作成しておくことは、教員側から見た利点だけでなく、学習する主体である児童生徒や、保護者、地域社会にとっても意義のあるものと考

える。それぞれの立場からのシラバスの有効性は次の通りである。

- 教員にとっては、キャリア教育の目標や社会科学習の系統性を確認することができ、指導計画や内容の工夫改善、授業改善を行うことができる。
- 児童生徒にとっては、教科の学習内容を確認することで、これまでの学習がどのようなつながりで次の学習に進むのかを確認することができ、自主的な学びへとつながる。
- 保護者や地域住民にとっては、学校での教育活動（キャリア教育と社会科学習）を理解するための情報の一部となる。

ア 「縦」の連携を意識したシラバス作成

キャリア教育が各校種だけで完結せず、小中高を通して一貫した指導が実施されるためには、指導する教員が、児童生徒がこれまでにどのような学習を行ってきたのか、これからどのような学習へとつないでいくことが大切なのかをしっかりと押さえておくことが必要となる。また、児童生徒のそれぞれの発達の段階にどのようなキャリア発達課題があるのかを理解し、意識して指導することで授業が大きく変わるることとなる。さらに、教員が小中高を見通して学習の内容やキャリア発達課題を捉えた指導を行うことで、校種間や学年間につながりが生まれ、「縦」の連携が図られることになる。

そこで、小中高を通したキャリア教育を進めるためのシラバスを作成するための手順として【図5】のように取り組むこととした。なお、目標の設定、核となる体験活動の位置付け、キャリア教育の視点から精選した社会科の単元学習のつなぎ、さらに、小中高の「縦」の連携や家庭・地域・企業等との「横」の連携をおさえながら作成していくことにした。

【図5】 シラバス作成の手順



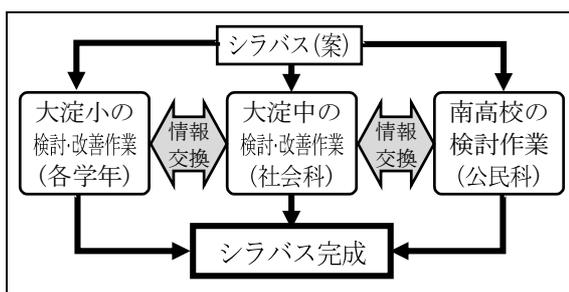
イ 校種間の連携によるシラバスの検討・改善

作成したシラバスについて、近隣の小学校、高等学校に協力してもらい【図6】のように検討・改善作業を行った。

大淀小学校では、各学年でシラバスを検討・改善して頂いた。特に、「横」の連携や学習活動（実践研究Ⅰ）の有効性を見るために、社会科授業（第6学年で実施）に取り組んで頂いた様子が【写真1】である。

宮崎南高等学校では、キャリア教育担当者・公民科教諭にシラバスの検討作業に取り組んでいただいた。高等学校では地理歴史科、公民科を選択するため、より多くの生徒が履修できる内容を検討していただき、公民科に絞って設定を行うことにした。こうして作成したものが【表5】である。

【図6】 シラバスの検討・改善作業の流れ



【写真1】 大淀小学校での社会科授業の様子



【表5】 キャリア教育と各教科との関連を示すシラバス

【キャリア教育と各教科との関連を示すシラバス】		生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる	
学校種	学年	単元名	単元の目標
高校（宮崎南高等学校）	高3	核となる体験活動 卒業式(3月) 進路説明会 オープンキャンパス (8月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の能力・進路志向を明確にし、卒業後の進路に具体的な目標と理想を定め実行に移すことができる。</li> <li>自己の職業的な能力・適性を理解し、将来設計を固めることができる。</li> <li>様々な情報を取り、進路選択の幅を広げることができる。</li> </ul>
	高2	核となる体験活動 インターンシップ テーマ別ミニ講演会 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業学習と職業観・生き方についての考えを深め、進路選択の幅を広げることができる。</li> <li>自身の進路志向を明確にし、将来設計を固めることができる。</li> </ul>
	高1	核となる体験活動 講座 職業観・生き方について (6月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業観・生き方について、進路選択の幅を広げることができる。</li> <li>自身の進路志向を明確にし、将来設計を固めることができる。</li> </ul>
中学校（大淀中学校）	中3	核となる体験活動 進路説明会 オープンキャンパス 面談 (8月～12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するために努力することができる。</li> <li>将来への夢を達成する上での現実的課題に気づき、自分で解決する方法を探ることができる。</li> </ul>
	中2	核となる体験活動 職業体験 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業観・生き方について、進路選択の幅を広げることができる。</li> <li>自身の進路志向を明確にし、将来設計を固めることができる。</li> </ul>
	中1	核となる体験活動 職業人講話 (7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来に対する漠然とした夢や抱負を、自分自身で抱くことができる。</li> </ul>
小学校（大淀小学校）	小6	核となる体験活動 私生活でできること (11月～3月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会と自己の関わりから、自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> <li>自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> </ul>
	小5	核となる体験活動 宿泊学習 (5月又は10月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会と自己の関わりから、自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> <li>自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> </ul>
	小4	核となる体験活動 1/2成人式 (2月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会と自己の関わりから、自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> <li>自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> </ul>

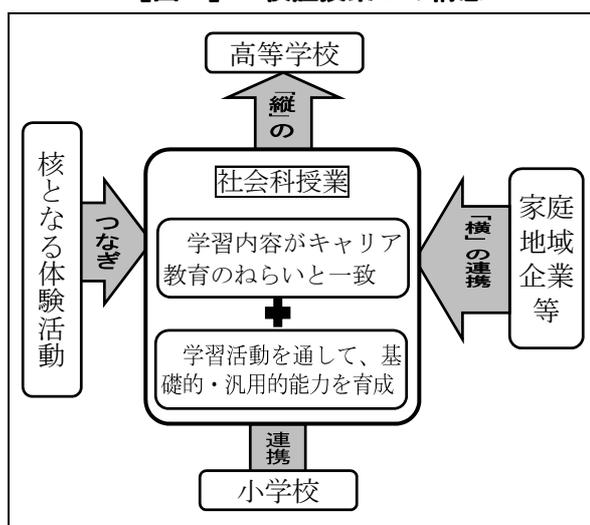
  

小中のキャリア教育の目標		自ら進んで学び、思いやりをもって判断・行動しながら協同を意識して生活することのできる児童生徒	
学校種	学年	単元名	単元の目標
小学校	小6	核となる体験活動 私生活でできること (11月～3月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会と自己の関わりから、自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> <li>自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> </ul>
	小5	核となる体験活動 宿泊学習 (5月又は10月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会と自己の関わりから、自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> <li>自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> </ul>
	小4	核となる体験活動 1/2成人式 (2月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会と自己の関わりから、自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> <li>自分の役割や責任を自覚し、責任を担うことができる。</li> </ul>
中学校	中3	核となる体験活動 進路説明会 オープンキャンパス 面談 (8月～12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するために努力することができる。</li> <li>将来への夢を達成する上での現実的課題に気づき、自分で解決する方法を探ることができる。</li> </ul>
	中2	核となる体験活動 職業体験 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業観・生き方について、進路選択の幅を広げることができる。</li> <li>自身の進路志向を明確にし、将来設計を固めることができる。</li> </ul>
	中1	核となる体験活動 職業人講話 (7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来に対する漠然とした夢や抱負を、自分自身で抱くことができる。</li> </ul>
高校	高3	核となる体験活動 卒業式(3月) 進路説明会 オープンキャンパス (8月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の能力・進路志向を明確にし、卒業後の進路に具体的な目標と理想を定め実行に移すことができる。</li> <li>自己の職業的な能力・適性を理解し、将来設計を固めることができる。</li> <li>様々な情報を取り、進路選択の幅を広げることができる。</li> </ul>
	高2	核となる体験活動 インターンシップ テーマ別ミニ講演会 (12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業学習と職業観・生き方についての考えを深め、進路選択の幅を広げることができる。</li> <li>自身の進路志向を明確にし、将来設計を固めることができる。</li> </ul>
	高1	核となる体験活動 講座 職業観・生き方について (6月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業観・生き方について、進路選択の幅を広げることができる。</li> <li>自身の進路志向を明確にし、将来設計を固めることができる。</li> </ul>

## (2) シラバスを基にした授業の構想

作成したシラバスを基に「縦」と「横」の連携、核となる体験活動とのつながりを意識した授業づくりを【図7】のように取り組んだ。具体的には、社会科の学習内容とキャリア教育のねらいが一致する単元を取り上げ、実践研究Ⅰで取り組んだ学習活動を通して基礎的・汎用的能力を育成する手立てをとる。さらに、授業に核となる体験活動をつなぎ、家庭や地域・企業等の「横」の連携を図っていく。このような授業を展開することは、生徒たちにより一層学ぶ大切さを気付かせることができると考える。

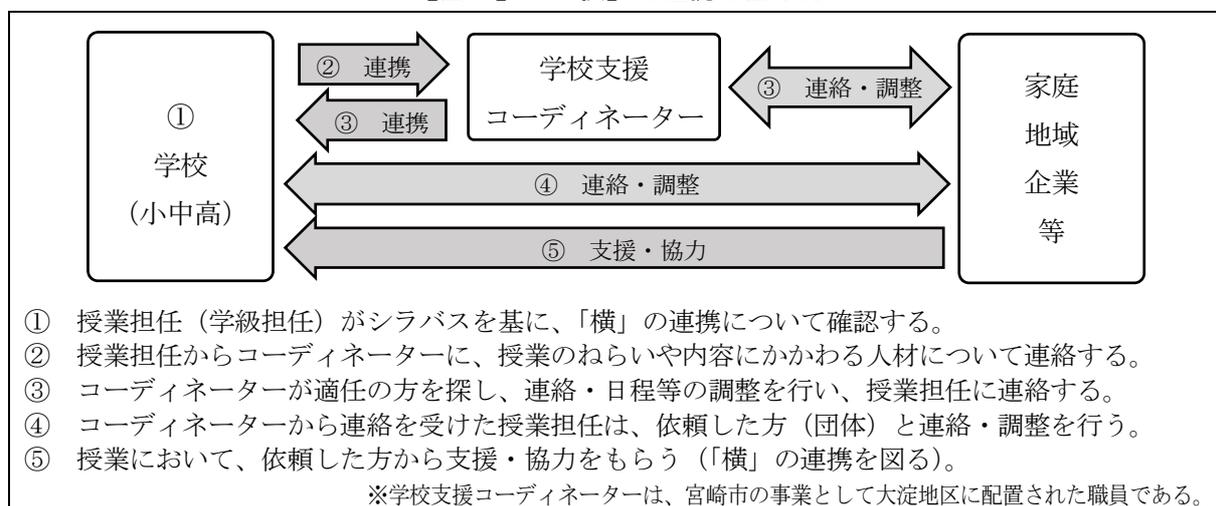
【図7】 検証授業Ⅱの構想



### ア 「横」の連携の図り方

学校の学びが、将来社会人として生きていくために大切であることを児童生徒に伝えるためには、社会人の方から直接話を聞く等、社会のもつ教育資源を活用することが重要である。そのためには、学校と、家庭、地域や企業等との連携・協力が必要である。そこで、授業の学びの大切さを児童生徒が実感できる授業づくりを行うために家庭、地域、企業等との「横」の連携を図ることとした。その際、適した人材を効率良く見つけるために、学校支援コーディネーターの活用を図ることとした。具体的には【図8】のような手順で行った。

【図8】 「横」の連携の図り方



### イ 核となる体験活動とのつながりの明確化

社会科の単元学習とキャリア教育での核となる体験活動とのつながりを明確にするために、シラバスを基にした、単元の指導計画を【図9】のように作成した。キャリア教育を意識した学習指導ができるように、教科としての学習の位置付けとキャリア教育の視点から捉えた位置付けを可視化した。また、次の核となる体験活動へのつながり方についても明示した。

【図9】 シラバスを基に作成した単元計画表（例：中学校3年生）

宮崎市立大淀中学校		第3学年	社会科	単元名：生産と労働
【単元目標】		【キャリア教育との関連】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業の役割や責任、働く意義や権利、日本の社会が抱える雇用に関する課題についての学習を通して、将来自分もかわる問題として関心を持ちながら意欲的に考えようとする事ができる。(関・意・態)</li> <li>○ 企業の役割や責任、働く意義や権利、日本の社会が抱える雇用に関する課題について、新聞記事や動画等の資料をもとに多面的・多角的に考察し、自分の考えを適切に表現することができる。(思・判・表)</li> <li>○ 新聞記事や図等の資料から、企業の役割や責任、働く意義や権利、日本の社会が抱える雇用に関する課題について適切に読み取ることができる。(技)</li> <li>○ 社会の中で企業が果たす役割と責任があること、労働者の権利を保障し雇用と労働条件の改善が重要であることについて理解させる。(知・理)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 労働が社会を成り立たせるために必要なものであることや人の生活の基本となるものであることを理解させた上で、生徒一人一人に働く意義や目的について自分なりの考えをもたせる。これらの学習は、キャリア教育が目指す社会人・職業人として自立していくために必要な知識となるもので、キャリア教育のねらいとも一致するものである。</li> </ul>		
【既習からつなぐ】				
核となる体験活動		○ 職場体験学習での活動の様子（写真）や感想等を紹介することで、体験学習での「働く」についての学びを想起させ、「働く意義」の学習内容へとつないでいく。		
・職場体験活動 (中学校2年 12月)				
【指導計画】				
時間	主な学習内容・活動		評価規準	
第1時	<b>「企業の役割と意義」</b> ○ 企業の生産活動を中心に、資本主義経済の大まかな特徴を理解する。また、株式会社の仕組みについて理解するとともに、株価の変動やその背景について関心をもつ。		○ 社会における株価の動き、その社会的背景について関心を持ち、意欲的に追究している。(関・意・態) ○ 資本主義経済の特徴と株式会社の仕組みを理解し、その知識を身に付けている。(知・理)	
第2時	<b>「現代日本の企業」</b> ○ 中小企業をはじめとする日本の企業の現状や課題について調べ、理解する。また、企業の役割と社会的責任について、具体的な事例をもとに考え、自分の考えを表現する。		○ 企業の社会的責任について、企業や消費者、地域住民などの立場から多面的・多角的に考え、その過程や結果を表現している。(思・判・表) ○ 日本の中小企業について、情報を収集・選択し、その結果を分かりやすく発表している。(技)	
第3時	<b>「働くことの意義」</b> ○ 職場体験学習を想起し、「働くことの意義」について資料から調べたり、グループで話し合ったりしながら自分の考えをまとめる。		○ 「働く」ことに関心を持ちながら学習活動に取り組むことができる。(意・関・態) ○ 学習を通して、自分なりの「働く」意義について考えをまとめることができる。(思・判・表)	
	<b>「横」の連携</b> …ハローワークの方に授業に参加してもらい、「大人が働く理由」についての話をさせていただく。			
第4時	<b>「労働者の権利と働きやすい職場」</b> ○ 労働者の権利を守り、労働条件を改善するために、労働組合や様々な法律があることを理解し、仕事や雇用をめぐる環境の変化について、資料を収集し読み取っていく。また、現代日本の労働や雇用の課題を、将来自らもかわる課題としてとらえ、その解決策について考える。		○ 現代の労働や雇用の課題について多面的・多角的に考察し、自分の考えを分りやすく表現している。(思・判・表) ○ 非正規労働者や外国人労働者の実態などについて、様々な情報手段を活用して資料を収集し、図表にまとめている。(技)	
【次へつなぐ】				
核となる体験活動		○ 学習で知り得た職業観・勤労観や「働く」について自分なりにまとめた考えを想起させることで、中学校卒業後からの自分の生き方（進路等）について考えさせる活動につないでいく。		
・進路説明会&三者面談 (8~12月)				

単元の目標とキャリア教育との関連を記述。

核となる体験活動で得る学びの単元学習へのつなぎ方を記述。

「横」の連携を図る具体的な取組についての記述。

次の核となる体験活動へのつなぎ方を記述。

(3) 授業実践（検証授業Ⅱ）

1	授業実施日	平成 25 年 10 月 30 日（水）第3校時
2	対象生徒	宮崎市立大淀中学校 第3学年1組
3	指導単元	社会科「生産と労働～働くことの意義」
4	検証の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実践Ⅰで改善した手立てが有効となっているか。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① ステップ1…核となる体験活動である「職場体験学習」を振り返ることで、「働く」体験を想起させる（核となる体験活動とつなぐ）。また、学習課題を設定する際に生徒のつづやきを生かすように配慮する。</li> <li>② ステップ2…基礎的・基本的な内容をしっかりと習得させる資料については精選することで資料数を少なくし、生徒が学習に取り組む前に確実に指示を行う。</li> </ul> </li> </ul>

- ③ ステップ3…グループでの学びが深まるように、意見を絞る条件を与えることで話し合いを活性化させる。また、グループでまとめた意見を黒板に整理する。
  - ④ ステップ4…学習課題を再度確認し、理由や根拠をもって意見を書くように指示する。
- 「横」の連携として取り組むゲストティーチャーの活用が、授業に深まりをもたせるものになっているか。

学習内容及び学習活動	指導上の留意点 ※網掛けはキャリア教育の視点からの手立て
<b>ステップ1 教材の提示</b>	
<p>1 「働く」について、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ プレゼン資料の提示               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場体験学習の写真・感想</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職場体験学習の写真・感想を紹介することで、「働く」体験を想起させる。</li> <li>ア 職場体験学習の画像を使い、生徒に本時の学習に対する興味・関心をもたせる。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">核となる体験活動をつなぐ</div> <span style="font-size: 2em; margin-left: 20px;">➤</span>	
<b>ステップ1 学習課題の設定</b>	
<p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">人は何のために「働く」の だろうか？</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予想の記入               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収入を得て、生活するため。</li> <li>・ その仕事が好きだから。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題をワークシートに書かせることで、働く目的について考える学習であることを確認させる。</li> <li>○ 予想を書かせることで、学習の方向性をつかませる。</li> <li>イ 学習課題の記述・提示の工夫を行い、生徒に進んで取り組もうとする意欲をもたせる。</li> </ul>
<b>ステップ2 基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な習得</b>	
<p>3 就きたい職業を選択し、理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選択する3つの職業 (事務職員/工場作業員/看護師)</li> <li>○ 職業選択               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収入を得るため。</li> <li>・ 休みが多いから。</li> <li>・ 夢や理想をかなえるため。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料の中で理解しづらい語句については、補足説明を行う。</li> <li>○ 就きたい職業を3つの職業から選択させ、理由を考えることで「働く」目的について気付かせていく。発表できるように理由についても考えを書かせる。</li> <li>○ 「休日が多い」という条件から、ワーク・ライフ・バランスの意味について説明する。</li> <li>ウ 資料から調べる作業を通して、基礎的・基本的な知識や概念を習得させる。</li> </ul>
<b>ステップ3 発展課題への取組</b>	
<p>4 働く目的について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 働いている人のコメントを確認</li> <li>○ 個人での作業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会に貢献するため。</li> <li>・ 人に喜ばれるため。</li> <li>・ 生きがい(幸福)のため。</li> </ul> </li> <li>○ グループで作業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の考えを発表する。</li> <li>・ グループで「働く」目的について3つに絞る。</li> </ul> </li> <li>○ グループごとの発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「働く」目的の確認を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 働いている人のコメントから、「働く」目的について考えさせる。</li> <li>○ グループ内で「働く」目的を3つに絞らせることで、話し合う内容を深めさせる。</li> <li>エ 友だちと考えを発表し合うことで、多様な意見や考えに気付かせる。</li> <li>○ ポイントとなる意見を出している班を指名して理由を答えさせることで、学びを深めていく。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>

<p>5 社会の現状を知る。</p> <p>○ ハローワークの方の話 「大人が働く理由」</p>	<p>○ 学びをさらに深めるために、ゲストティーチャーからの話を聞かせる。</p> <div data-bbox="523 275 932 472" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>学びをさらに深いものにするために、「横」の連携としてハローワークの方からの話を聞く活動を設定する。</p> </div> <div data-bbox="997 248 1295 472" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1321 248 1385 472" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>横の連携</p> </div>
<p>○ アンケート結果の提示</p>	<p>○ アンケート結果を提示し、大人がどのような目的で働くのかを示し、自分の考えと比較させる。</p>
<p><b>ステップ4 学習のまとめ</b></p>	
<p>6 学習課題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>○ 自分の考えの整理</p>	<p>○ 学習を通して考えたことを深め、整理するためにワークシートに書かせる。</p> <div data-bbox="646 723 1195 757" style="border: 1px solid gray; padding: 2px;"> <p>オ 学習で深まった考えをまとめさせる。</p> </div>
<p>7 本時のまとめをする。</p>	<p>○ 次時への関心をもたせるために、労働者がもつ権利について学習することを伝える。</p>

- 成果と課題

《成果》

- ・ 生徒に与える資料数を減らしたり、グループで話し合う内容について条件を与えて活動に取り組みせたりとゆとりをもって各活動に取り組んだことで、生徒が考える時間をしっかりと設定することができた。また、職場体験活動（核となる体験活動）での学びを導入につないだことで、生徒の授業に対する興味・関心を高めることができた。
- ・ ゲストティーチャーを活用した「横」の連携を授業に取り入れたことで、生徒が真剣に学習に取り組む様子が話を聞く態度やワークシートのまとめから見ることができ、授業での学びが大切であることを生徒が実感できることにつながったのではと考えられる。

《課題》

- ・ 様々な手立てを行うことは生徒にとって有効ではあるが、生徒の実態や学習内容に応じて手立てを精選、検討することが必要である。また、グループでの話し合いが互いの学び合いへと発展したり、自分の考えに理由をもってまとめることができるようになったりしていくためにも、各教科の指導との連携が必要である。
- ・ 「横」の連携を図るための打合わせの時間を何度も確保することは難しいので、事前に学習活動（該当学年、時期、活動内容等）について理解していただくためにも、シラバスの活用方法について検討していく必要がある。

## Ⅷ 研究の成果と課題

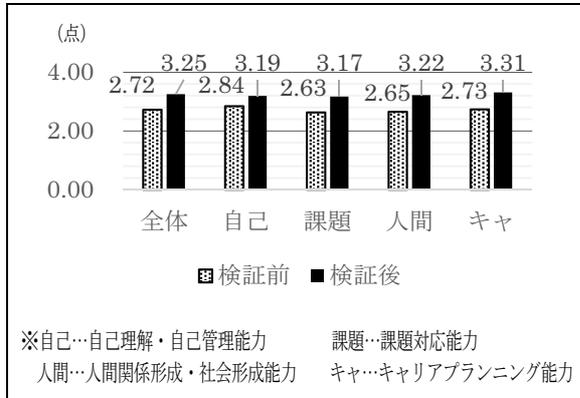
### 1 生徒の変容

#### (1) 実態調査における生徒の変容

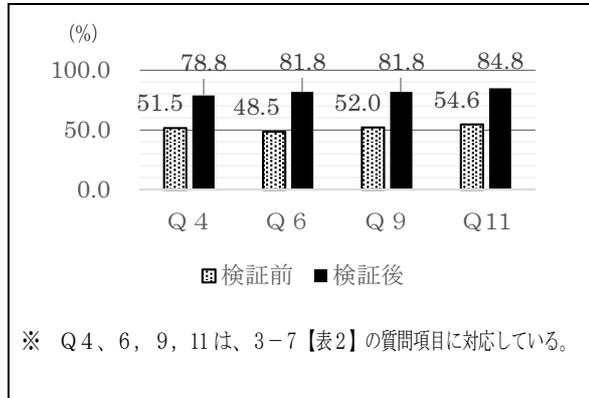
本研究に関するキャリア教育の実態調査（P.3-7を参照）を、検証授業前（7月実施）と検証授業後（11月実施）の2回実施した。質問項目に対して「強く思う（4点）」「まあ思う（3点）」「あまり思わない（2点）」「まったく思わない（1点）」として得点化し、能力

ごとに平均化したものが【図10】である。キャリア教育の視点から、本校生徒の課題として取り上げた4つの質問項目に対する肯定的な回答をした割合の変化について示したものが【図11】である。

【図10】 基礎的・汎用的能力の変容



【図11】 課題として取り上げた4質問項目に対する肯定的な回答をした割合の変化



○ 実態調査結果の考察

- ・ 【図10】を見ると全体的に数値が上がり、授業中での手立てに一通りの効果があったことが推察される。また、【図11】を見ると、検証授業前に比べ、検証授業後では課題として取り上げた4つの質問項目が全て伸びており、授業で行った手立てが有効であったと考えられる。

(2) 感想等の記述からみる生徒の変容

実態調査における数値の変化だけでは、生徒の変容を捉えることは難しい。そこで、生徒の思考の変容を見るために、核となる体験活動での感想を比較したものが【表6】である。

【表6】 ある生徒の思考の変容

対象となる活動	検証の対象	生徒の考えや感想
①職場体験活動 (中学2年12月)	○ 職場体験学習後に作成した新聞に記載された感想	私は、職場体験学習で次のようなことを感じました。職場体験学習をするまでは、正直あまりしたくないと思っていました。しかし、実際にやってみるとすごくやりがいを感じました。仕事をこなすたびに、達成感やうれしさがこみ上げてきます。働くことは、人のためでもあり、自分のためでもあるんだということを感じました。
②進路説明会 (中学3年12月)	○ 進路説明会後に作成した感想文	私は、夏休みが終わってからも、進路がはっきりと決まりませんでした。それは、将来自分が就きたい職業が決まっていなかったからです。しかし、将来の自分を考えて、就きたい職業を決めたら、進路もすんなり決まりました。夢をかなえるために、どんなことを学ぶべきなのかをしっかりと考えて、高校を選びました。夢があれば、それに向かって頑張れるから良かったと感じています。

○ 考察

- ・ 働くことの意味や意義への気付きが、自分自身の進路の選択へとつながっていることから、社会科の授業や核となる体験活動等を通した「縦」の連携による効果が現れていると考えられる。しかしながら、生徒の変容を見るための前年度の資料があまり残っておらず、分析を十分に行うことができなかった。このことから、生徒の変容をつかむための資料をポートフォリオ等にまとめ、次の学年へと引き継いでいく必要がある。

## 2 研究の成果

- 社会科の授業において、基礎的・汎用的能力を育成することを意識しながら授業の各段階に工夫・改善を行ったことで、授業が活性化され、生徒が自主的に授業に参加する様子が見られた。
- 単元を絞り、核となる体験活動とのつながりを可視化したシラバスを基にして「縦」と「横」の連携を図った授業を行ったことで、生徒の授業での学びに深まりが生まれるとともに、学びの大切さを実感することにつながったと考えられる。また、小学校、高等学校の協力を得てシラバスを作成したことで、小中高の「縦」の連携を図るための土台を築くことができた。

## 3 研究の課題

- 主体的に学ぶ児童生徒を育てるためには、社会科だけでなく、各教科等との連携を図るとともに学校の全教育活動を通して取り組む必要がある。組織体制をしっかりと整え、児童生徒の学びの変容を把握するための評価方法について検討し、児童生徒の記録をキャリアシートやポートフォリオ等で次の学年や学校へとつないでいく方法についても研究を深めていきたい。
- 授業や学校での学びは関連性・継続性があり大切なものであるということを児童生徒、保護者、地域等に理解してもらうためにシラバスの活用方法について検討していく必要がある。特に、分かりやすい資料の作成や情報の発信方法等について研究を深めていきたい。

### 《参考・引用文献等》

「小学校学習指導要領解説 社会編」	(平成 20 年 8 月 文部科学省)
「中学校学習指導要領解説 社会編」	(平成 20 年 9 月 文部科学省)
「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」	(平成 21 年 12 月 文部科学省)
「高等学校学習指導要領解説 公民編」	(平成 21 年 12 月 文部科学省)
「小学校キャリア教育の手引き」	(平成 22 年 1 月 文部科学省)
「中学校キャリア教育の手引き」	(平成 23 年 3 月 文部科学省)
「高等学校キャリア教育の手引き」	(平成 24 年 2 月 文部科学省)
「キャリア教育って結局何なんだ？」	(平成 21 年 11 月 国立教育政策研究所)
「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」	(平成 23 年 3 月 文部科学省)
「宮崎県キャリア教育ガイドライン」	(平成 25 年 1 月 宮崎県教育委員会)
「児童心理 7月号」	(平成 20 年 7 月 金子書房)
「初等教育資料 6月号」	(平成 24 年 6 月 東洋館出版社)
「学校における対話と協同」 佐藤雅彰 著	(平成 23 年 10 月 ぎょうせい)

《実践校名》 宮崎市立大淀中学校・宮崎市立大淀小学校・宮崎南高等学校